

資料2 市民アンケート調査

2 - 1 市民アンケート調査の概要

1 調査目的

小松島市都市計画マスタープランの策定にあたり、小松島市の現状や課題、今後のまちづくりの方向性等を検討する目的で市民アンケート調査を実施しました。

2 調査概要

対象者	15歳以上の市民から無作為に抽出
対象者数	2,500人
調査方法	郵送による調査票の配布及び回収
調査期間	平成23年6月29日～平成23年7月22日 (平成23年8月31日までに回収した調査票も結果に反映しています。)

3 回収結果

配布数	2,500票
回収数	1,034票
回収率	41.4%

4 調査結果の見方

(1) 回答割合について

- ・回答割合は、各項目の回答者数を、回収数で除し、パーセンテージを小数点第1位まで表示しています。
- ・単数回答（選択肢から1つだけ回答する場合）の問は、回答割合の合計が100%になるよう調整しています。
- ・複数回答（選択肢から2つ以上選択できる場合）の問は、回答割合の合計は100%より大きくなります。

(2) 無回答について

以下の事項は全て無回答で集計しています。

- ・回答が記入されていない場合
- ・単数回答の問で複数回答している場合
- ・複数回答の問で指定の選択数以上の回答をしている場合

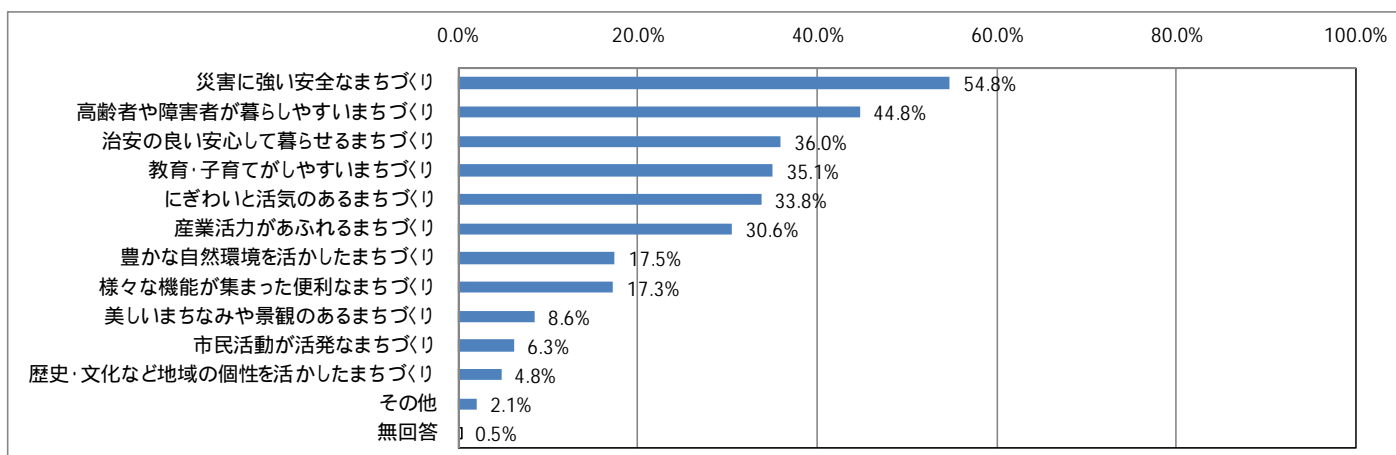
2 - 2 . 調査結果の概要

1 小松島市全体のまちづくりについて

(問1) 小松島市の将来イメージ(将来像)としてどのようなまちづくりを目指すべきか

[選択肢のうちあてはまるものを最大3つまで]

「災害に強い安全なまちづくり」が54.8%と最も多く、次いで「高齢者や障害者が暮らしやすいまちづくり」44.8%、「治安の良い安心して暮らせるまちづくり」36.0%となっています。

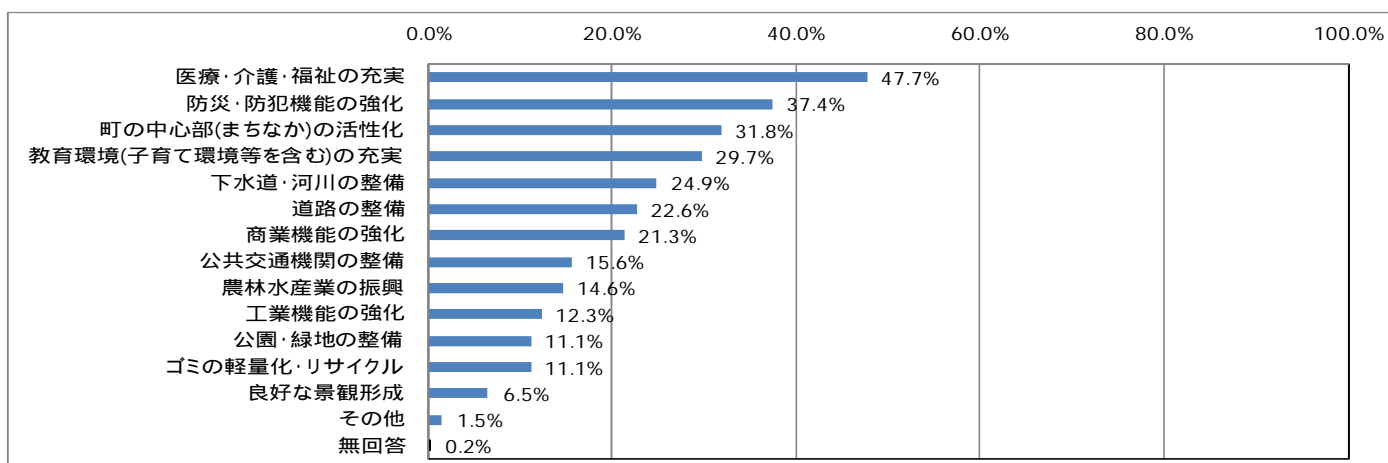


問1 小松島市の将来イメージ

(問2) 今後のまちづくりにおいて、どのような分野に力を入れる必要があるか

[選択肢のうちあてはまるものを最大3つまで]

「医療・介護・福祉の充実」が47.7%と最も多く、次いで「防災・防犯機能の強化」37.4%、「町の中心部(まちなか)の活性化」31.8%となっています。

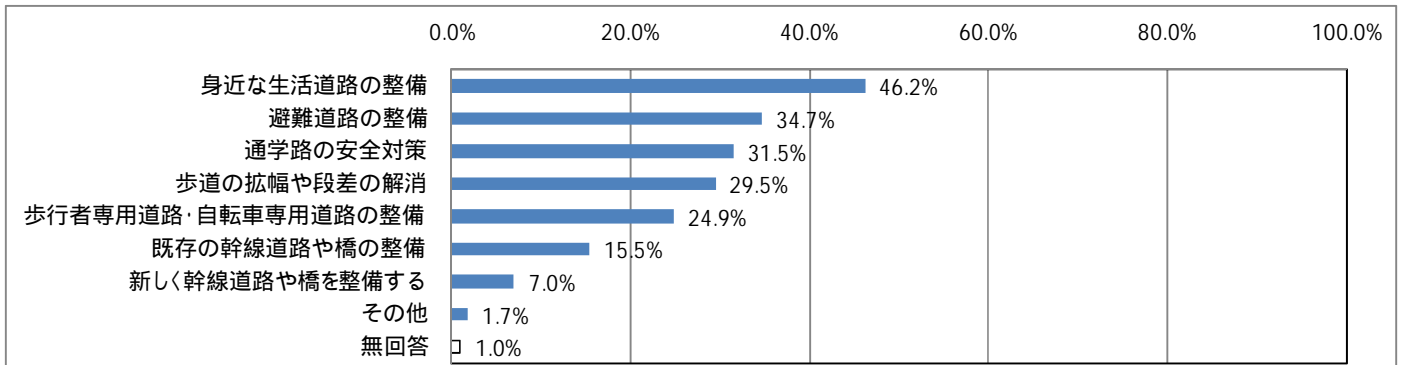


問2 今後のまちづくりにおいて力を入れるべき分野

(問3) 道路の整備について何を重視すべきか

[選択肢のうちあてはまるものを最大2つまで]

「身近な生活道路の整備」が46.2%と最も多く、次いで「避難道路の整備」34.7%、「通学路の安全対策」31.5%となっています。

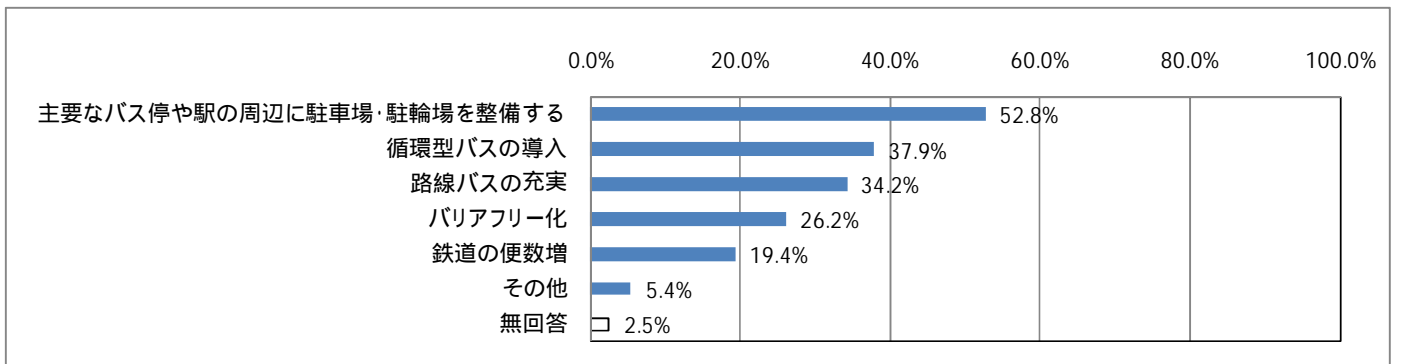


問3 道路の整備について重視すべきこと

(問4) 公共交通機関の整備について何を重視すべきか

[選択肢のうちあてはまるものを最大2つまで]

「主要なバス停や駅の周辺に駐車場・駐輪場を整備する」が52.8%と最も多く、次いで「循環型バスの導入」37.9%、「路線バスの充実」34.2%となっています。

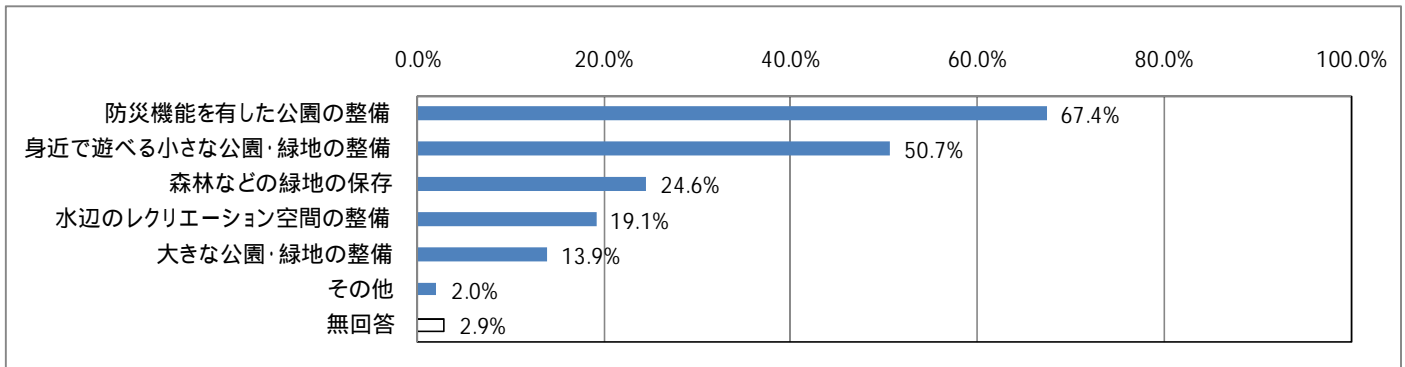


問4 公共交通機関の整備について重視すべきこと

(問5) 公園・緑地の整備について何を重視すべきか

[選択肢のうちあてはまるものを最大2つまで]

「防災機能を有した公園の整備」が67.4%と最も多く、次いで「身近で遊べる小さな公園・緑地の整備」50.7%、「森林などの緑地の保存」24.6%となっています。

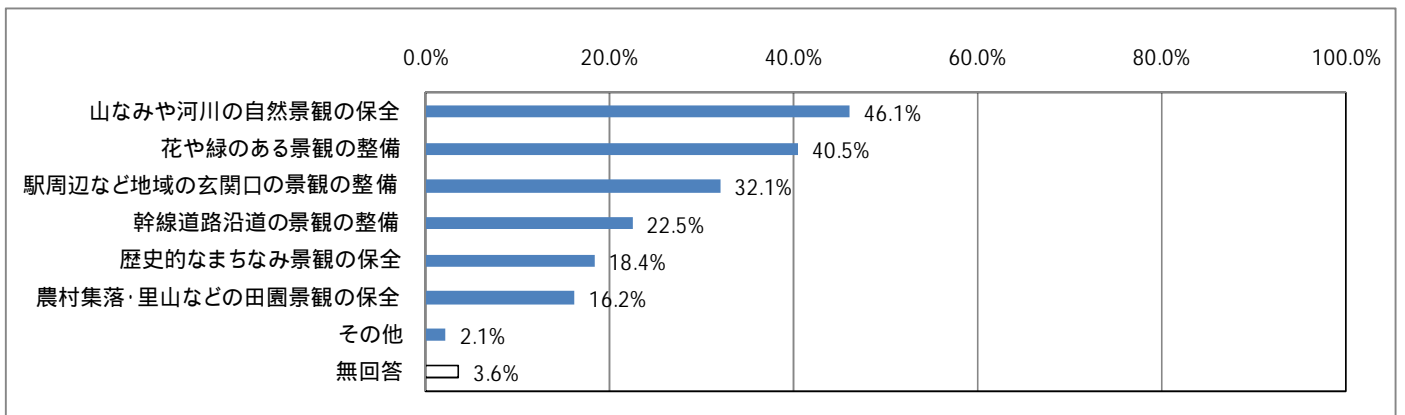


問5 公園・緑地の整備について重視すべきこと

(問6) 良好な景観形成について何を重視すべきか

[選択肢のうちあてはまるものを最大2つまで]

「山なみや河川の自然景観の保全」が46.1%と最も多く、次いで「花や緑のある景観の整備」40.5%、「駅周辺など地域の玄関口の景観の整備」32.1%となっています。

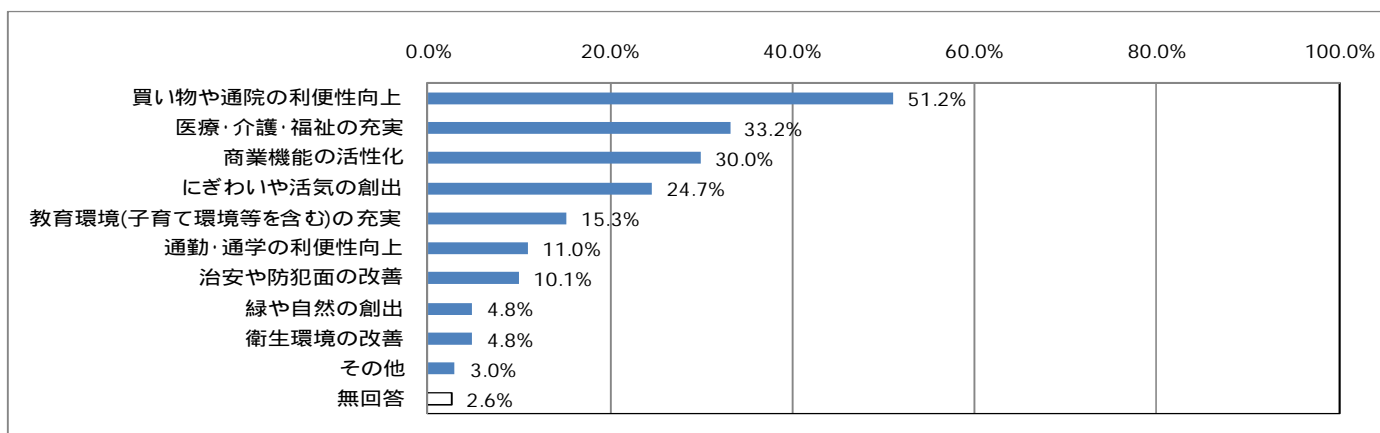


問6 良好な景観形成について重視すべきこと

(問7) まちなか居住を促すためにはどういった事が重要か

[選択肢のうちあてはまるものを最大2つまで]

「買い物や通院の利便性向上」が51.2%と最も多く、次いで「医療・介護・福祉の充実」33.2%、「商業機能の活性化」30.0%となっています。

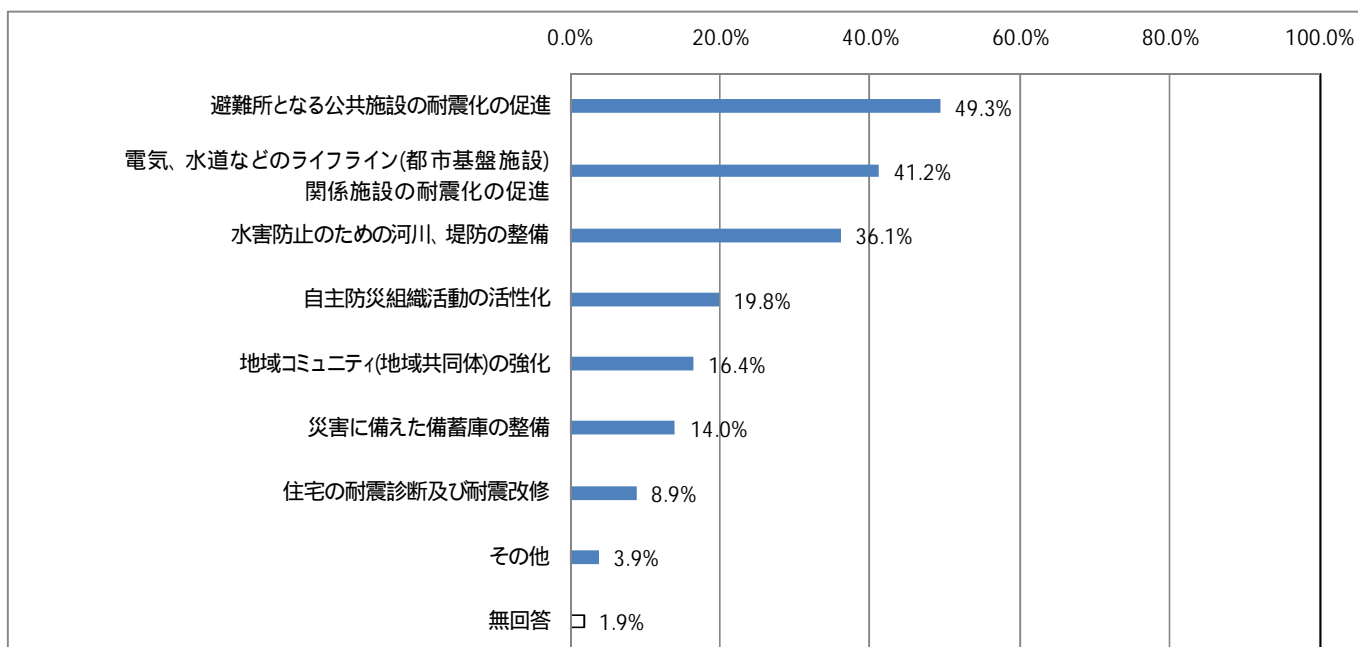


問7 まちなか居住を促すために重要なこと

(問8) 地震や大規模災害に備え、今後どのようなことが必要か

[選択肢のうちあてはまるものを最大2つまで]

「避難所となる公共施設の耐震化の促進」が49.3%と最も多く、次いで「電気・水道などのライフライン(都市基盤施設)関係施設の耐震化の促進」41.2%、「水害防止のための河川、堤防の整備」36.1%となっています。

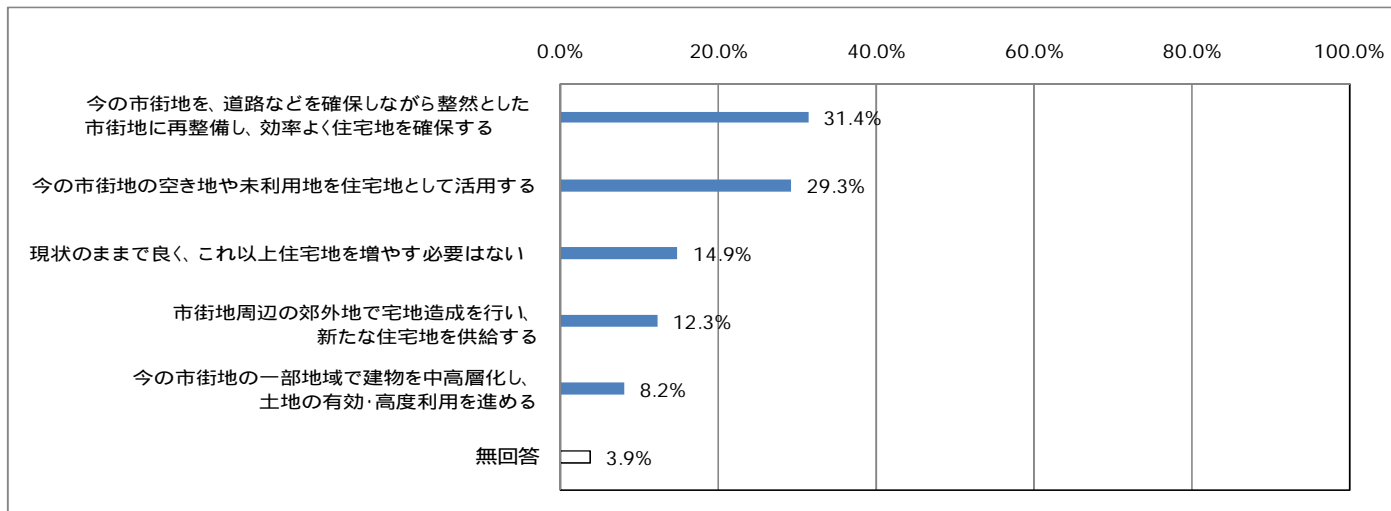


問8 地震や大規模災害への備えとして必要なこと

(問9)人口の定住化の受け皿となる住宅地を確保するための土地利用のあり方についてどう思うか

[選択肢のうちあてはまるもの1つに]

「今の市街地を、道路などを確保しながら整然とした市街地に再整備し、効率よく住宅地を確保する」が31.4%と最も多く、次いで「今の市街地の空き地や未利用地を住宅地として活用する」29.3%、「現状のままで良く、これ以上住宅地を増やす必要はない」14.9%となっています。

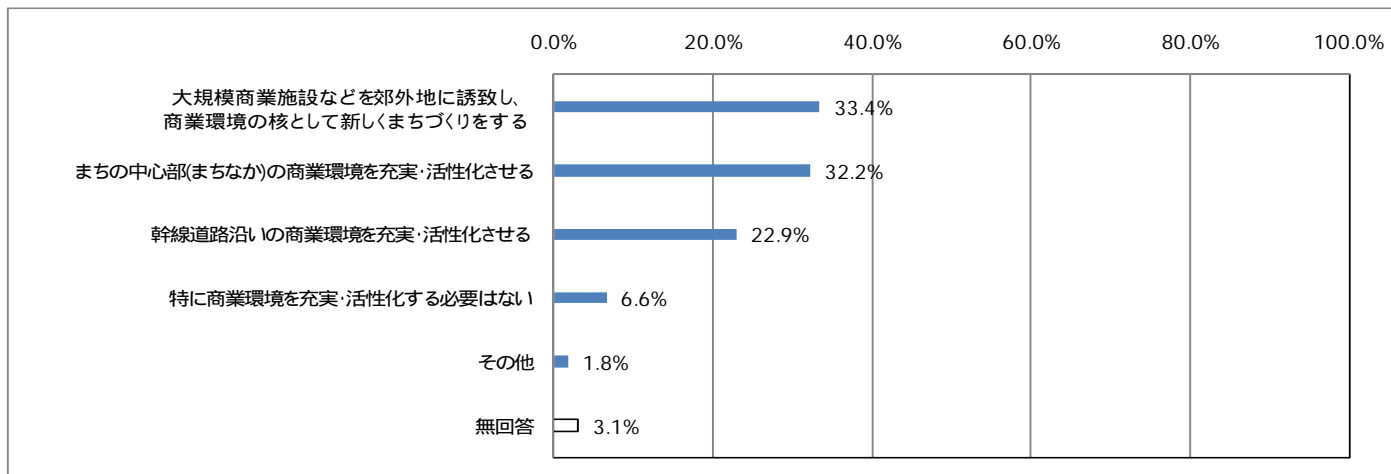


問9 住宅地を確保するための土地利用のあり方

(問10)今後の商業のあり方についてどう思うか

[選択肢のうちあてはまるもの1つに]

「大規模商業施設などを郊外地に誘致し、商業環境の核として新しくまちづくりをする」が33.4%と最も多く、次いで「まちの中心部(まちなか)の商業環境を充実・活性化させる」32.2%、「幹線道路沿いの商業環境を充実・活性化させる」22.9%となっています。

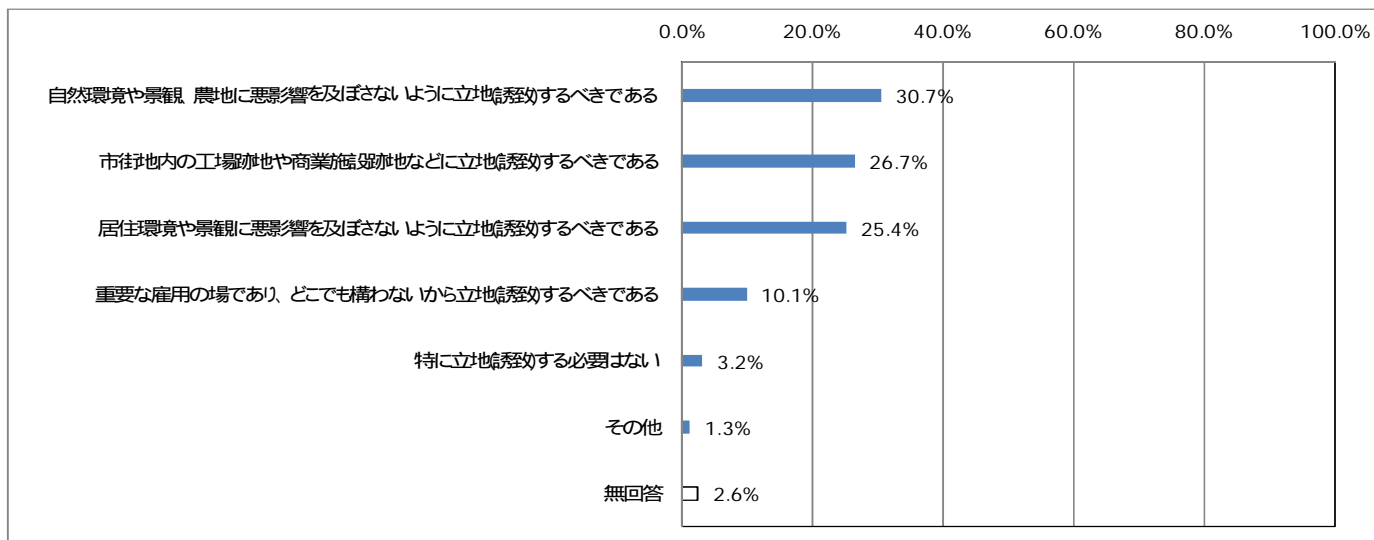


問10 今後の商業のあり方

(問 11) 企業・工場の誘致する場合、どういったことに配慮して立地（誘致）するべきか

[選択肢のうちあてはまるもの1つに]

「自然環境や景観、農地に悪影響を及ぼさないように立地（誘致）するべきである」が 30.7%と最も多く、次いで「市街地内の工場跡地や商業施設跡地などに立地（誘致）するべきである」26.7%、「居住環境や景観に悪影響を及ぼさないように立地（誘致）するべきである」25.4%となっています。

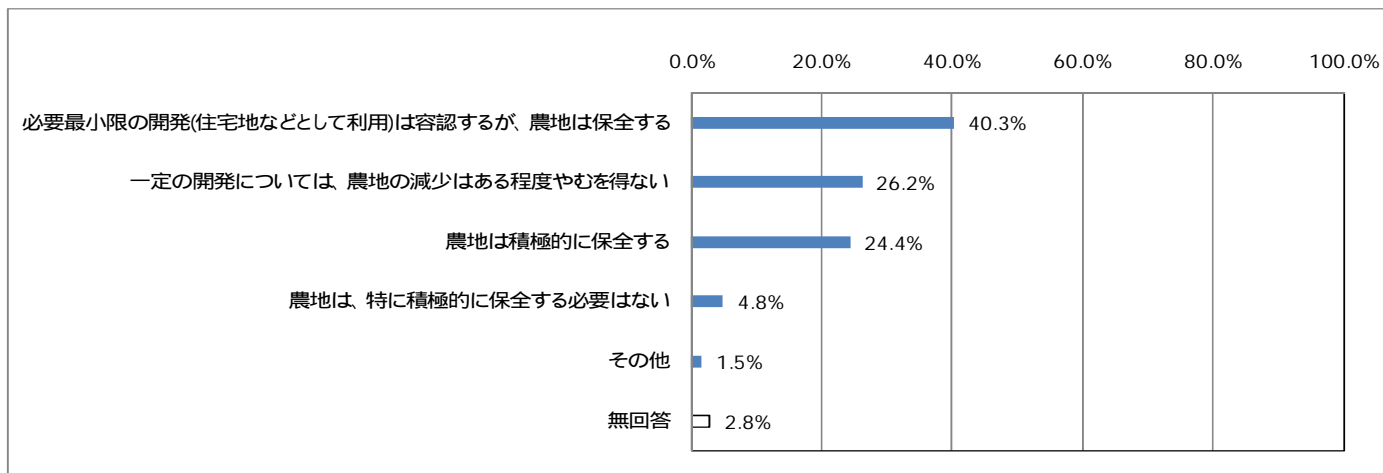


問 11 企業・工場を立地（誘致）する場合に配慮するべきこと

(問 12) 今後の農地のあり方についてどう思うか

[選択肢のうちあてはまるもの1つに]

「必要最小限の開発（住宅地などとして利用）は容認するが、農地は保全する」が 40.3%と最も多く、次いで「一定の開発については、農地の減少はある程度やむを得ない」26.2%、「農地は積極的に保全する」24.4%となっています。



問 12 今後の農地のあり方

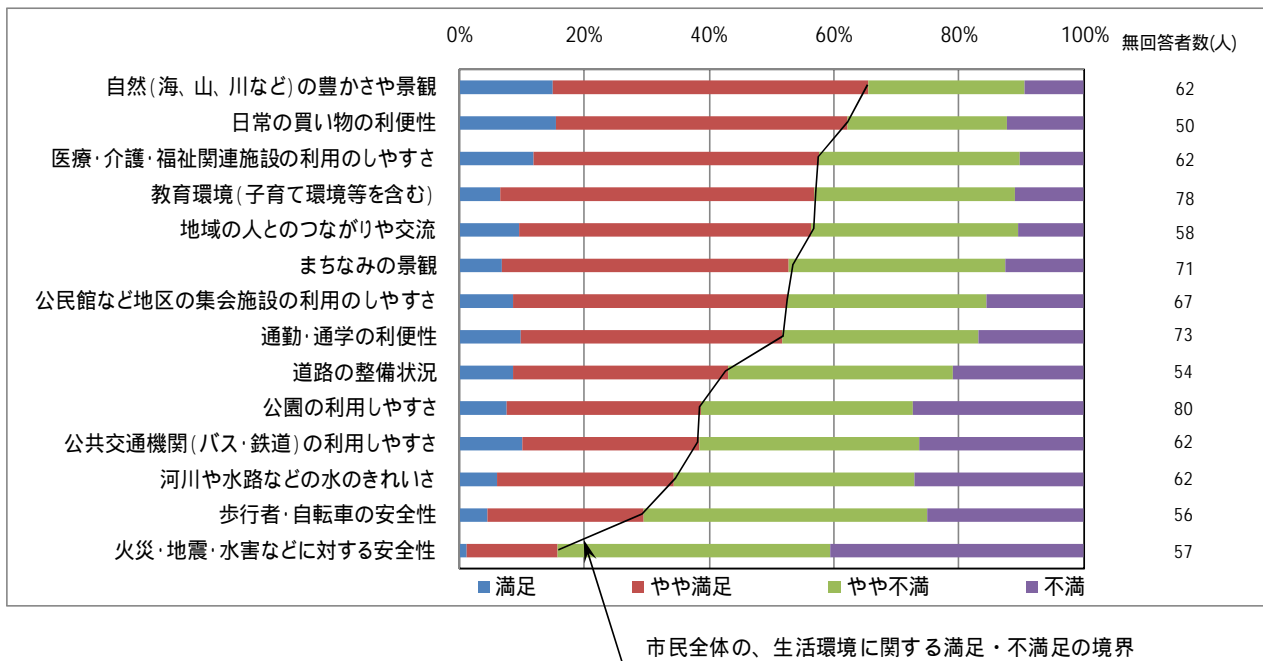
2 お住まいの地域（小学校区単位）について

（問13）お住まいの地域（小学校区単位）の生活環境についてどの程度満足しているか

[それぞれの項目について満足、やや満足、やや不満、不満の4つのうちから1つに]

「満足」、「やや満足」と答えた中では、「自然(海、山、川)の豊かさや景観」が65.4%と最も多く、次いで「日常の買い物の利便性」62.2%、「医療・介護・福祉関連施設の利用のしやすさ」57.5%となっています。

「不満」、「やや不満」と答えた中では、「火災・地震・水害などに対する安全性」が84.2%と最も多く、次いで「歩行者・自転車の安全性」70.4%、「河川や水路などの水のきれいさ」65.5%となっています。



問13 生活環境の満足度

問13の回答割合は、満足、やや満足、やや不満、不満の各項目の回答数を有効回答者数（回収数から無回答者数を引いたもの）で除し、回答割合の合計が100%になるよう調整しています。

問 13 生活環境の満足度（単位：％）

項目	満足	やや満足	満足小計	やや不満	不満	不満小計
自然(海、山、川など)の豊かさや景観	15.0	50.5	65.4	25.1	9.5	34.6
日常の買い物の利便性	15.6	46.6	62.2	25.5	12.3	37.8
医療・介護・福祉関連施設の利用のしやすさ	12.0	45.5	57.5	32.1	10.4	42.5
教育環境（子育て環境等を含む）	6.5	50.3	56.8	32.1	11.1	43.2
地域の人とのつながりや交流	9.7	46.6	56.3	33.0	10.7	43.7
まちなみの景観	6.8	45.9	52.7	34.8	12.6	47.3
公民館など地区の集会施設の利用のしやすさ	8.7	43.9	52.6	31.9	15.6	47.4
通勤・通学の利便性	9.9	41.8	51.6	31.4	16.9	48.4
道路の整備状況	8.7	34.3	43.0	36.1	20.9	57.0
公園の利用のしやすさ	7.7	31.0	38.7	33.9	27.4	61.3
公共交通機関(バス・鉄道)の利用のしやすさ	10.3	28.2	38.5	35.2	26.3	61.5
河川や水路などの水のきれいさ	6.2	28.2	34.5	38.3	27.2	65.5
歩行者・自転車の安全性	4.7	24.9	29.6	45.3	25.1	70.4
火災・地震・水害などに対する安全性	1.3	14.5	15.8	43.6	40.6	84.2

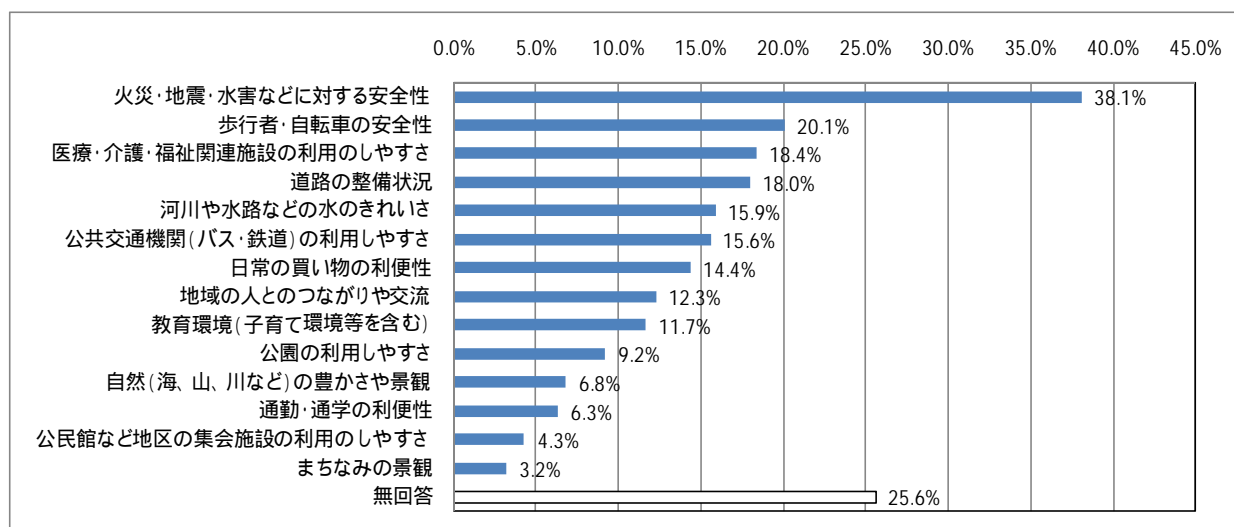
（満足小計 = 「満足」 + 「やや満足」）

（不満小計 = 「不満」 + 「やや不満」）

（問 14）生活環境の中で、最も大切だと思うもの

[選択肢のうちあてはまるものを最大3つまで]

「火災・地震・水害などに対する安全性」が38.1%と最も多く、次いで「歩行者・自転車の安全性」20.1%、「医療・介護・福祉関連施設の利用のしやすさ」18.4%となっています。



問 14 生活環境の中で最も大切なもの

(問14) 最も大切だと思う生活環境について選んだ理由

[自由記入回答]

最も大切だと思われる生活環境の上位5位のうち、その選んだ理由上位3つは以下のとおりとなっています。

1位 火災、地震、水害などに対する安全性(38.1%)

1	125人	東日本大震災により、地震や津波に対して不安を感じており、市へ対策を望んでいる。
2	53人	現在、避難所に指定されている施設の老朽化等の安全性について不安を感じている、または避難所を確保すべきと考えている。
3	43人	津波発生時の避難について、居住地近くに高い建物や高台がないとの指摘、または避難にかかる時間について不安を感じている。

東南海、南海地震発生時を想定した意見が多数寄せられている。

2位 歩行者、自転車の安全性(20.1%)

1	67人	歩道、車道及び自転車道の分離がされていないことを指摘。
2	27人	道路幅の狭さと交通量(大型車を含む)の多さを指摘。
3	15人	交通マナーの悪さを指摘。

通学路の危険性を指摘する声が多数寄せられている。

3位 医療、介護、福祉関連施設の利用のしやすさ(18.4%)

1	34人	医療・介護・福祉のいずれかについて費用面、サービス面、通院のしやすさ等の要望をもっている。
2	23人	高齢社会に対応できるように医療・介護・福祉分野は重要と考える。
3	21人	医療機関が近くにあることで生活に安心感や便利さを感じている。

高齢者、子供が利用する際の問題点が多数寄せられている。

4位 道路の整備状況(18.0%)

1	47人	道路の狭さを感じている、または狭い道路での交通量の多さについて危険を感じている。
2	46人	道路の凹凸や舗装の悪さを感じている。
3	6人	道路に水たまりが多い、または雨水により冠水しやすいと感じている。

特に生活道路の整備を要望する声が多く寄せられている。

5位 河川や水路などの水のきれいさ(15.9%)

1	81人	河川、水路がゴミやヘドロ、土砂により汚れており、流れが悪くなっていると感じている。
2	11人	河川や水路にゴミ(粗大ゴミを含む)を捨てる人がいるとの指摘。
3	5人	水路の改修が進んでいないとの指摘。

河川や水路の汚れと改善を要望する声が多く寄せられている。

生活環境の満足度と重要度の関係

- ・生活環境の各項目に対する市民ニーズを相対比較するため、下記の計算方法により満足度と重要度を評点化し、満足度の評点を横軸、重要度の評点を縦軸とした図を次ページに作成しました。
- ・満足度と重要度は各項目の評点の合計を 14 項目で除したものを平均値とし、満足度平均と重要度平均の 2 本の補助軸を設定することで分類しています。

満足度の評点化

下記の点数にそれぞれの回答数を乗じ、それらの合計を回答数で除したものを評点とします。

「満足」：4 点 「やや満足」：3 点 「やや不満」：2 点 「不満」：1 点

$$\text{満足度} = \frac{\text{「満足」} \times 4 \text{ 点} + \text{「やや満足」} \times 3 \text{ 点} + \text{「やや不満」} \times 2 \text{ 点} + \text{「不満」} \times 1 \text{ 点}}{\text{回答数}}$$

重要度の評点化

下記の点数にそれぞれの回答数を乗じ、それらの合計を回答数で除したものを評点とします。

「重要(最も大切)」な項目として回答されたもの : 4 点

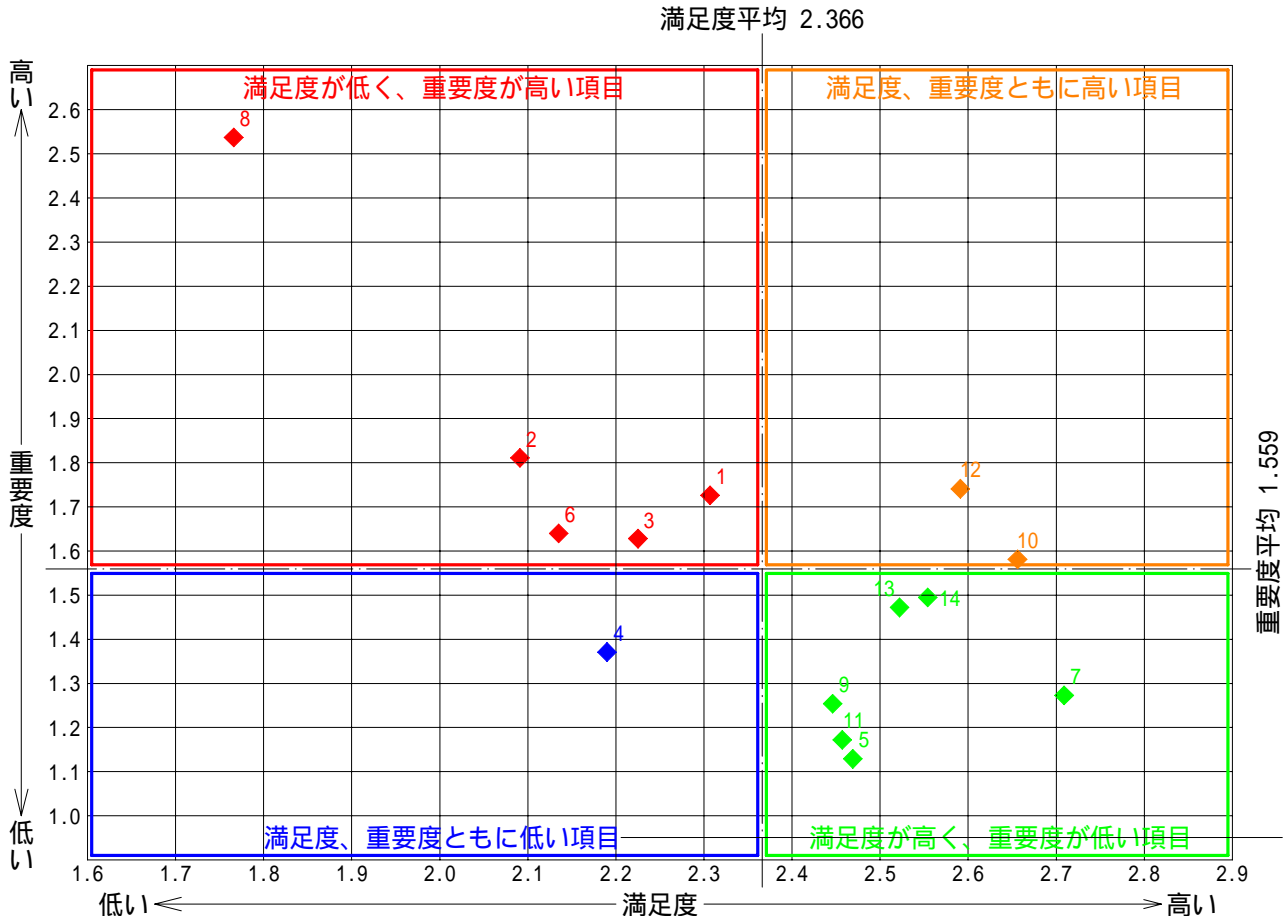
「重要(最も大切)」な項目として回答されなかったもの : 1 点

$$\text{重要度} = \frac{\text{「重要(最も大切)」} \times 4 \text{ 点} + \text{「重要(最も大切)と思わない」} \times 1 \text{ 点}}{\text{回答数}}$$

項目	満足度	重要度
1. 道路の整備状況	2.307	1.726
2. 歩行者・自転車の安全性	2.091	1.811
3. 公共交通機関(バス・鉄道)の利用のしやすさ	2.225	1.628
4. 公園の利用のしやすさ	2.190	1.371
5. まちなみの景観	2.469	1.129
6. 河川や水路などの水のきれいさ	2.135	1.640
7. 自然(海、山、川など)の豊かさや景観	2.709	1.273
8. 火災・地震・水害などに対する安全性	1.766	2.537
9. 通勤・通学の利便性	2.446	1.254
10. 日常の買い物の利便性	2.656	1.581
11. 公民館など地区の集会施設の利用のしやすさ	2.457	1.172
12. 医療・介護・福祉関連施設の利用のしやすさ	2.591	1.741
13. 教育環境(子育て環境等を含む)	2.522	1.472
14. 地域の人とのつながりや交流	2.554	1.495
平均値	2.366	1.559

網かけは、満足度または重要度の平均値を下回っている値を示しています。

生活環境の満足度と重要度の関係図



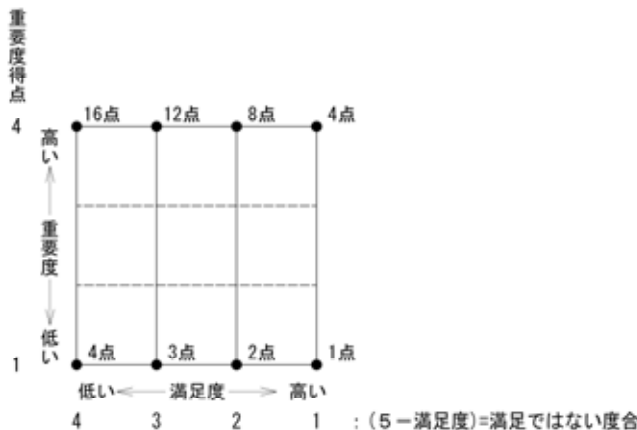
生活環境の満足度と重要度の分類表

番号	満足度が低く、重要度が高い項目	番号	満足度が高く、重要度も高い項目
1	道路の整備状況	10	日常の買い物の利便性
2	歩行者・自転車の安全性	12	医療・介護・福祉関連施設の利用のしやすさ
3	公共交通機関(バス・鉄道)の利用のしやすさ		
6	河川や水路などの水のきれいさ		
8	火災・地震・水害などに対する安全性		
番号	満足度が低く、重要度も低い項目	番号	満足度が高く、重要度が低い項目
4	公園の利用のしやすさ	5	まちなみの景観
		7	自然(海、山、川など)の豊かさや景観
		9	通勤・通学の利便性
		11	公民館など地区の集会施設の利用のしやすさ
		13	教育環境(子育て環境等を含む)
		14	地域の人とのつながりや交流

生活環境のニーズ得点

- ・生活環境の満足度と重要度の関係を1つの指標で表すため、下記の計算方法により、ニーズ得点を算出し、項目別のニーズ得点を下表に表しました。
- ・ニーズ得点の範囲は1～16点となり、満足度が低く、重要度が高いほど高得点となり、市民ニーズが相対的に高いと考えられます。

$$\text{ニーズ得点} = (5 - \text{満足度評点}) \times \text{重要度評点}$$



ニーズ得点は、「火災・地震・水害などに対する安全性」(8.206)が最も高く、次いで「歩行者・自転車の安全性」(5.269)、「河川や水路などの水のきれいさ」(4.699)となっています。

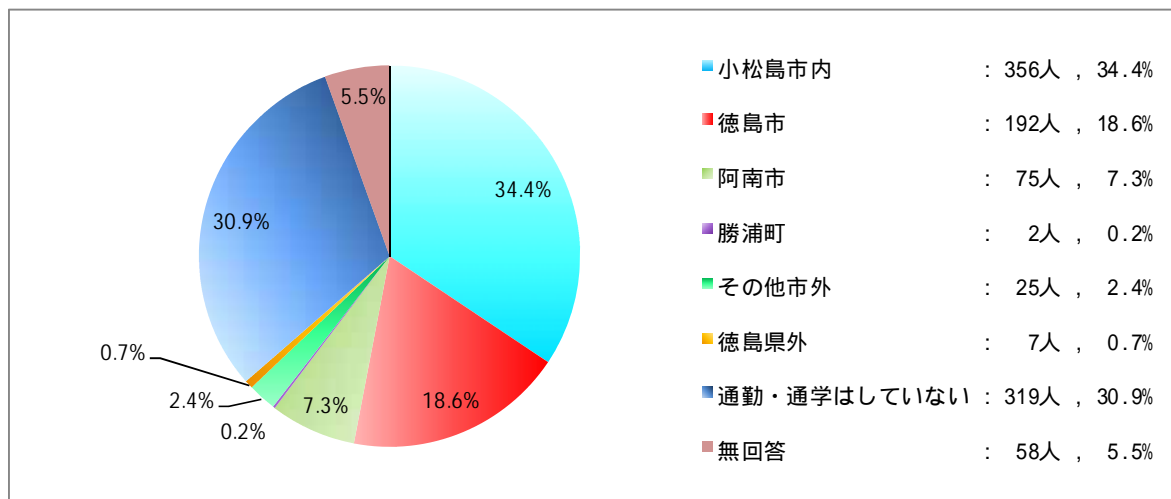
順位	項目	ニーズ得点
1	火災・地震・水害などに対する安全性	8.206
2	歩行者・自転車の安全性	5.269
3	河川や水路などの水のきれいさ	4.699
4	道路の整備状況	4.646
5	公共交通機関(バス・鉄道)の利用のしやすさ	4.517
6	医療・介護・福祉関連施設の利用のしやすさ	4.194
7	公園の利用のしやすさ	3.851
8	日常の買い物の利便性	3.707
9	地域の人とのつながりや交流	3.657
10	教育環境(子育て環境等を含む)	3.647
11	通勤・通学の利便性	3.201
12	公民館など地区の集会施設の利用のしやすさ	2.980
13	自然(海、山、川など)の豊かさや景観	2.916
14	まちなみの景観	2.857

3 普段の生活について

(問 15) 従業地・通学地

[選択肢のうち最もあてはまるもの 1 つに]

通勤・通学をしている中では、「小松島市内」が34.4%と最も多く、次いで「徳島市」18.6%、「阿南市」7.3%となっています。

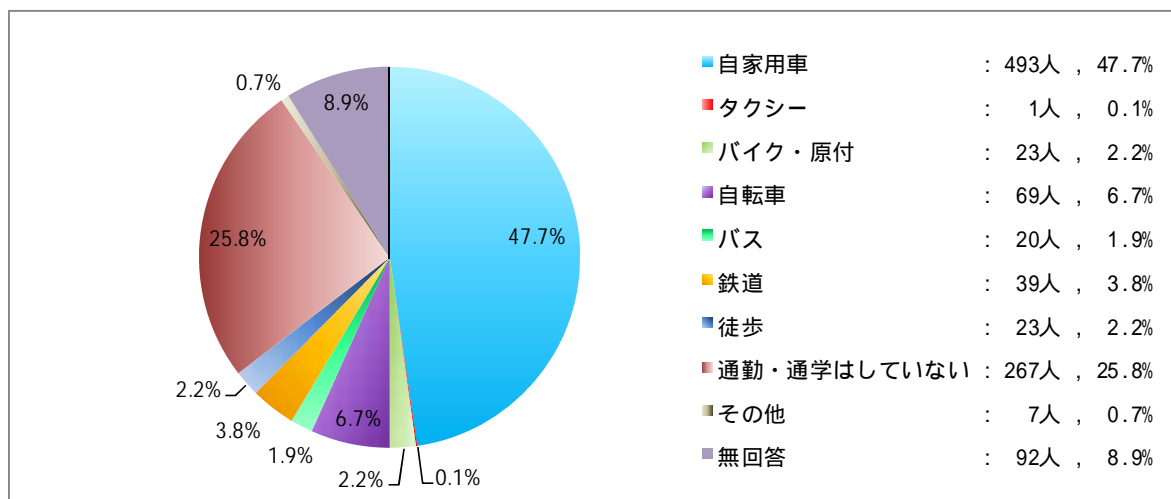


問 15 従業地・通学地

(問 16) 通勤・通学で利用している主な交通手段

[選択肢のうち最もあてはまるもの 1 つに]

通勤、通学をしている中では、「自家用車」が47.7%と最も多く、次いで「自転車」6.7%、「鉄道」3.8%となっています。

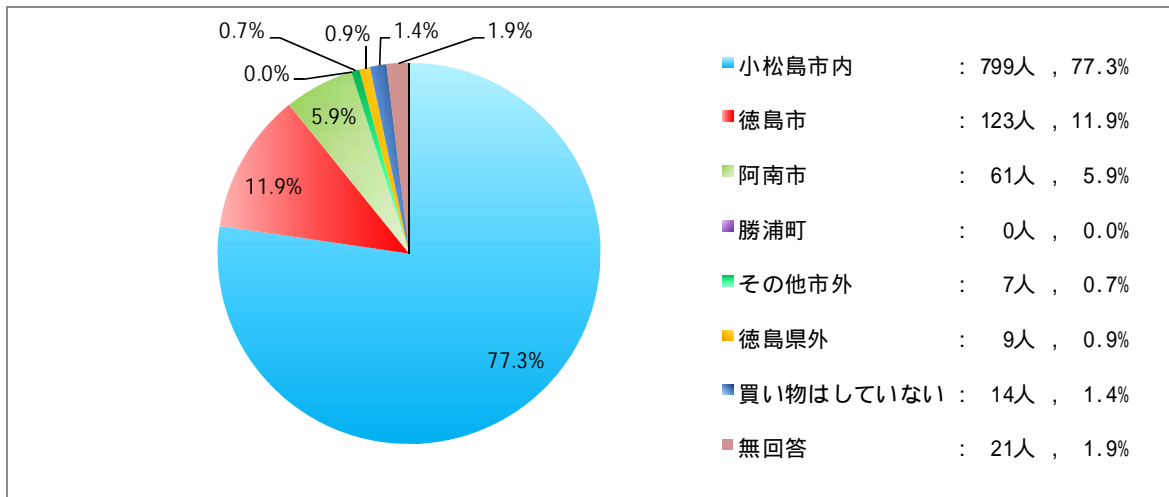


問 16 通勤・通学で利用している主な交通手段

(問 17) 日常の買い物の行き先

[選択肢のうち最もあてはまるもの1つに]

「小松島市内」が 77.3%と最も多く、次いで「徳島市」11.9%、「阿南市」5.9%となっています。

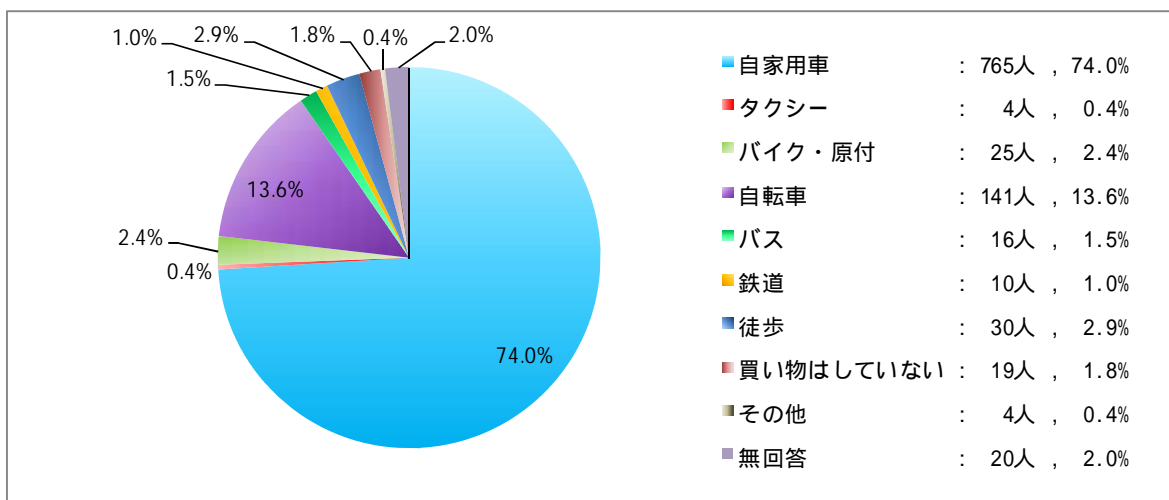


問 17 日常の買い物の行き先

(問 18) 日常の買い物で利用している主な交通手段

[選択肢のうち最もあてはまるもの1つに]

「自家用車」が 74.0%と最も多く、次いで「自転車」13.6%、「徒歩」2.9%となっています。

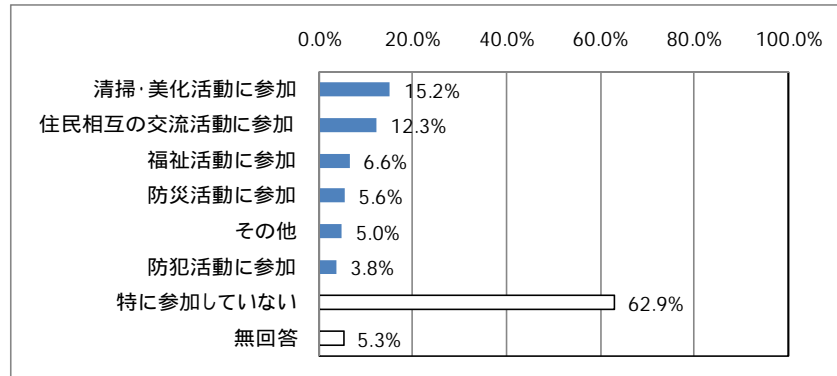


問 18 日常の買い物で利用している主な交通手段

(問 19) 普段どのようなコミュニティ活動(地域社会活動)に参加しているか

[選択肢のうちあてはまるものすべてに]

「特に参加していない」は全体の約 6 割を占め、参加している回答の中では、「清掃・美化活動に参加」が 15.2%と最も多く、次いで「住民相互の交流活動に参加」12.3%、「福祉活動に参加」6.6%となっています。

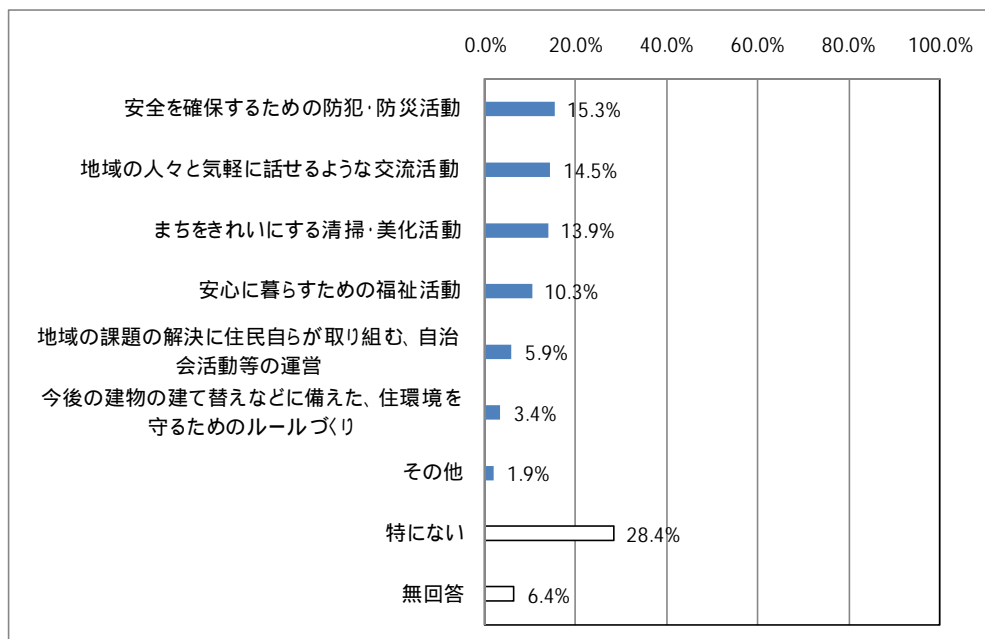


問 19 普段参加しているコミュニティ活動

(問 20) 身近なまちを良くしていくためにこれから取り組んでいきたい活動

[選択肢のうち最もあてはまるもの1つに]

「特にない」は全体の約 3 割を占め、取り組んでいきたい回答の中では、「安全を確保するための防犯・防災活動」が 15.3%と最も多く、次いで「地域の人々と気軽に話せるような交流活動」14.5%、「まちをきれいにする清掃・美化活動」13.9%となっています。

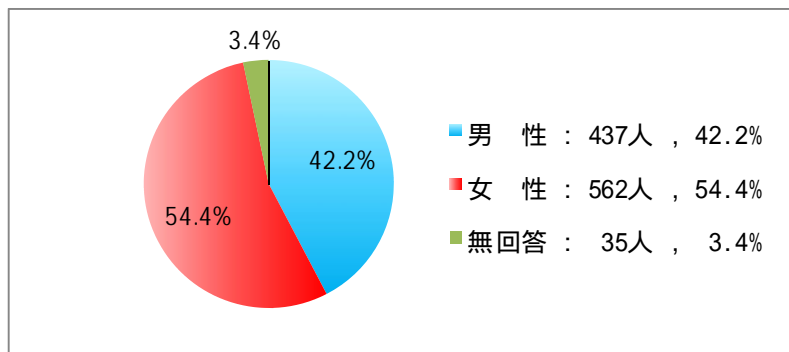


問 20 身近なまちを良くしていくために取り組んでいきたい活動

4 回答者の属性

(問 21) 回答者の性別

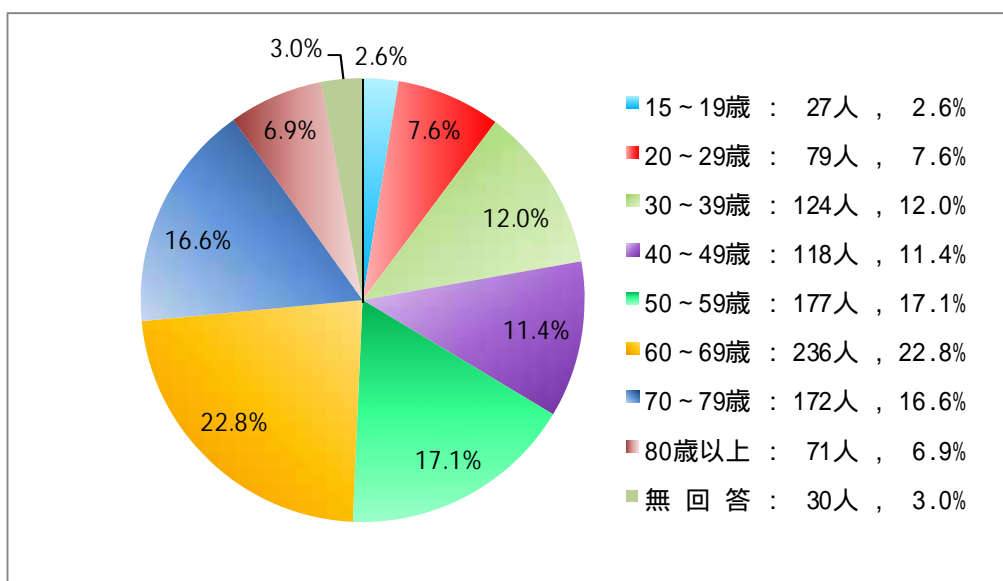
「女性」が 54.4%、「男性」が 42.2%となっています。



問 21 回答者の性別

(問 22) 回答者の年齢

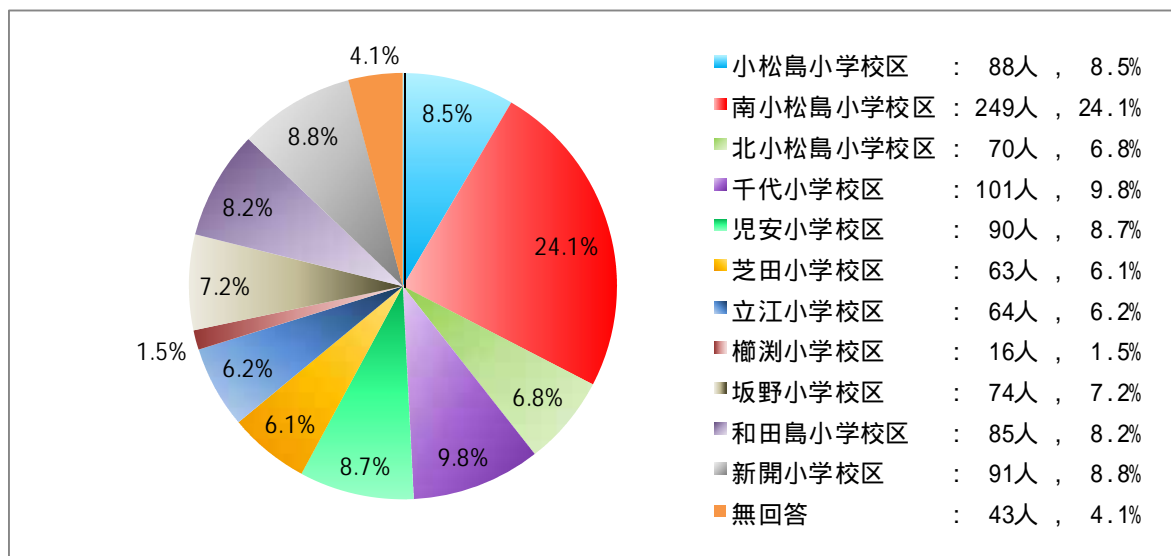
60 歳代が 22.8%と最も多く、次いで 50 歳代の 17.1%、70 歳代の 16.6%となっています。



問 22 回答者の年齢

(問 23) 回答者のお住まいの地域

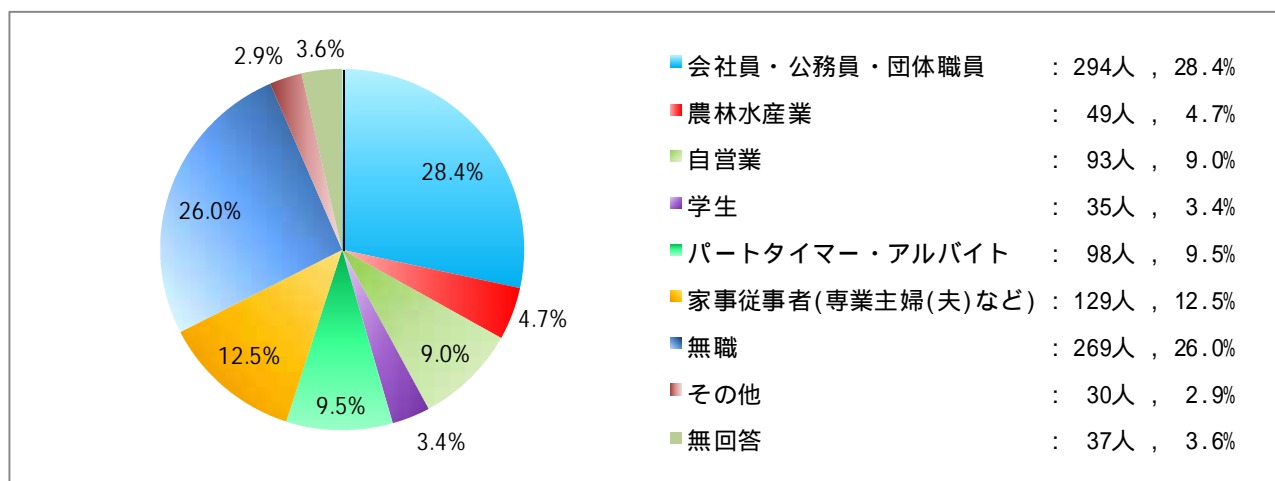
「南小松島小学校区」が 24.1%と最も多く、次いで「千代小学校区」9.8%、「新開小学校区」8.8%となっています。



問 23 回答者の居住地

(問 24) 回答者の職業

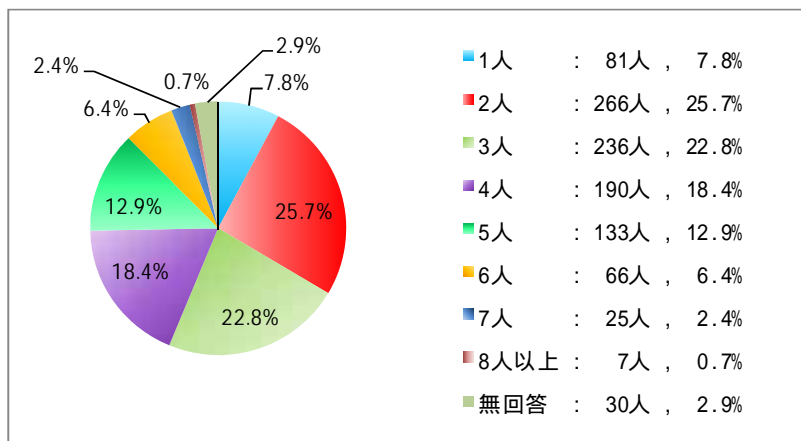
「会社員・公務員・団体職員」が 28.4%と最も多く、次いで「無職」26.0%、「家事従事者（専業主婦(夫)など）」12.5%となっています。



問 24 回答者の職業

(問 25) 回答者の世帯人数

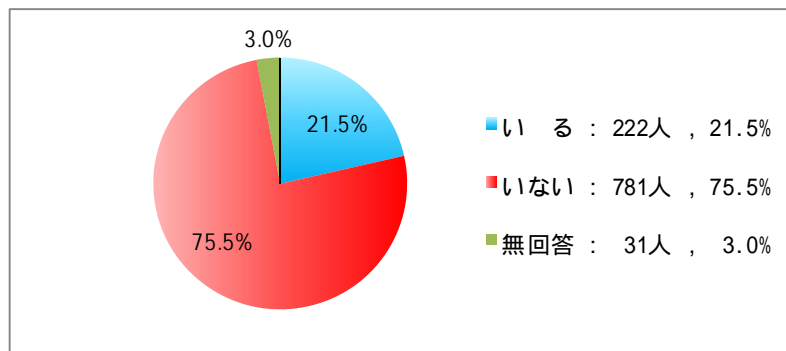
「2人」が25.7%と最も多く、次いで「3人」22.8%、「4人」18.4%となっています。



問 25 回答者の世帯人数

(問 26) 中学3年生までの子供が家族にどうか(回答者も含めて)

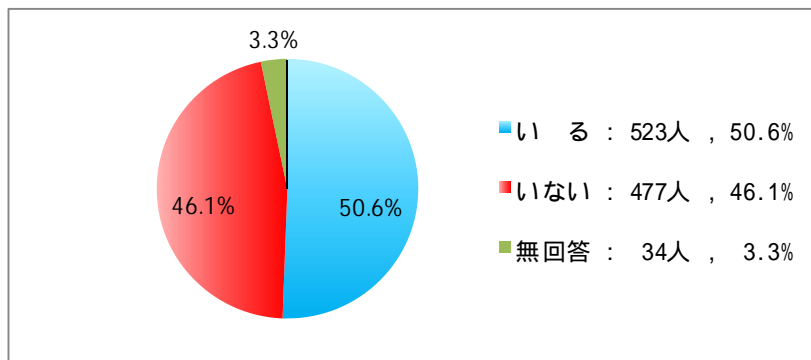
「いない」が約8割を占めます。



問 26 中学3年生までの子どもの同居

(問 27) 65歳以上の方が家族にどうか(回答者も含めて)

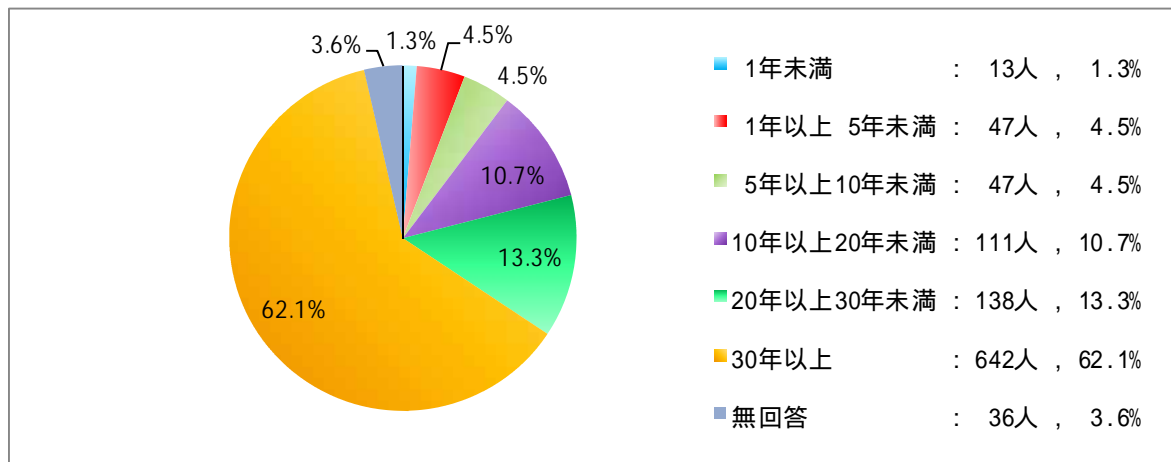
「いる」が約5割を占めます。



問 27 65歳以上の方の同居

(問 28) 小松島市での居住期間

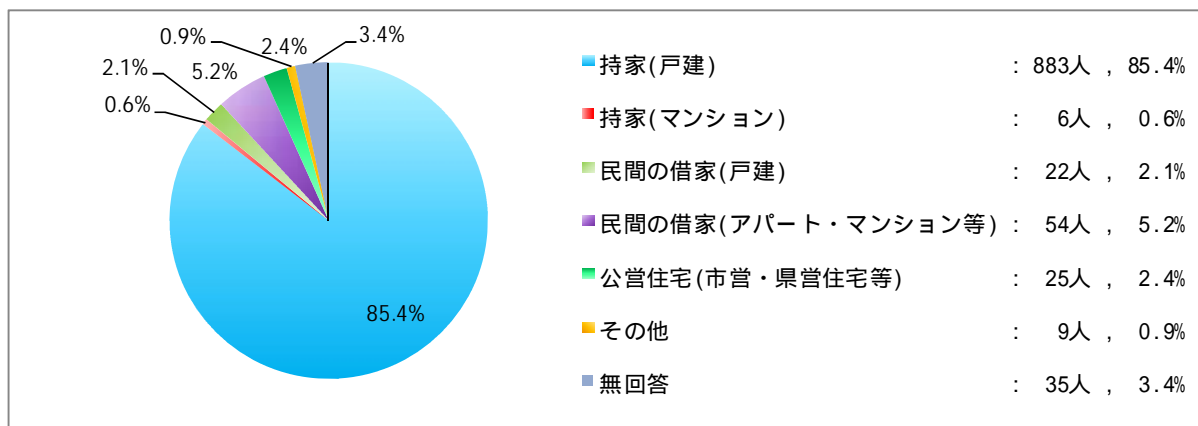
「30年以上」が62.1%と最も多く、次いで「20～30年未満」13.3%、「10～20年未満」10.7%と続いています。



問 28 小松島市での居住期間

(問 29) 住まいの住宅の形態

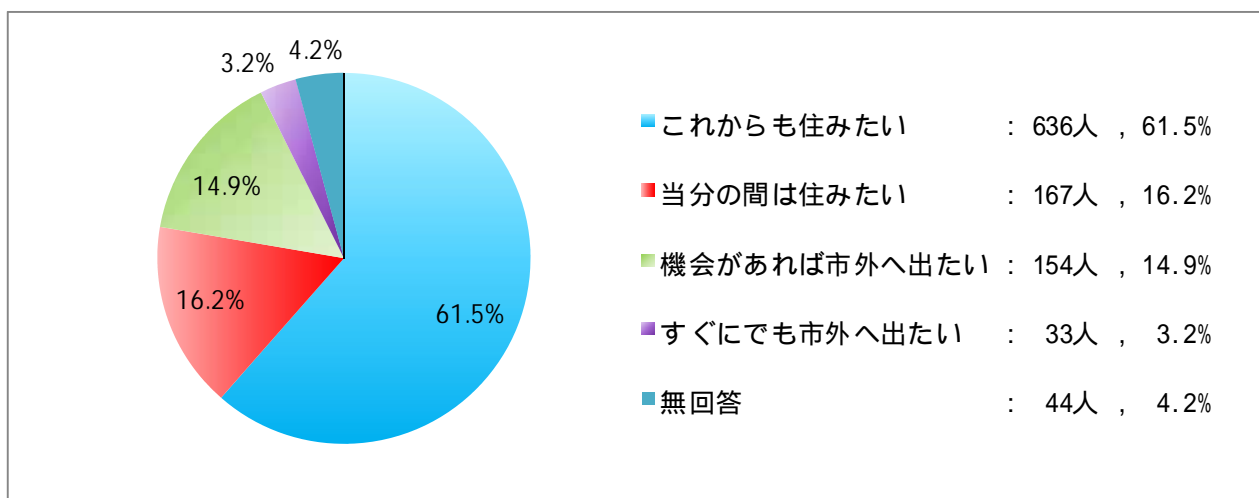
「持家(戸建)」が85.4%と最も多く、次いで「民間の借家(アパート・マンション等)」5.2%、「公営住宅(市営・県営住宅等)」2.4%となっています。



問 29 住まいの住宅の形態

(問30) これからも小松島市に住みたいか

「これからも住みたい」が 61.5%と最も多く、次いで「当分の間は住みたい」16.2%、「機会があれば市外へ出たい」14.9%となっています。



問30 これからも小松島市に住みたいと思うか